

育児休業に関する体験記 3

30代 188日間取得

①家事・育児について

1. 育児休業前に、夫婦で家事・育児の分担をどのように話し合い、行ったか

分担するとやらなければならないと負担に感じてしまう為、都度必要な家事・育児を協力して実施した。できることからやろうということ、互いに無理はしないことを決めた。

2. 育児休業後の家事・育児の参画の状況について

自然と協力できることが増えた。家のことでわからないことがなくなった。何が大変か、どこを協力すると負担が少なくなるのか理解できた。

(妻 記載欄)休業取得者の家事・育の児の参画の状況について

私自身も仕事をしている中での家事・育児だったので、何も言わなくてもやってくれるようになったことで気持ちが楽になった。

②仕事について

1. 休業取得前、仕事の引継ぎはどのように行ったか

同じ場所で働くスタッフに説明し理解をしてもらい、店舗責任者と業務の引継ぎ（紙ベースと口頭）についてミーティングを実施する。

2. 評価・反省

周囲のサポートもあって不足していたことが補うことができた。初めての長期間のお休みで店舗との関わり方や復帰後の接し方に戸惑いがあった。

③自由記述

取得に至った経緯は、出産は二人目なので妻は慣れていたものの、長男の赤ちゃん返りもあり精神的な疲労が大きく体調を崩してしまいました。仕事で夜遅くまで家をあけることが多かったので、これまではほとんどのことは妻に任せっきり、家の中のことがわからない状態でした。

上司に相談すると「まずは家のこと」からと背中を押してもらえたことで気持ちが楽になり、家の問題に集中して向かい合うことができました。管理職をしていたこともあり、休めないと決めつけていた部分もありました。会社として受け止めてもらえたことが大きかったです。

育休を終えてまずは「大変」の一言です。やってみなければわからない部分はすごくありました。

同時に「感謝」です。互いにありがとうと伝え合う機会が増えました。こどもと向き合う時間も格段に増えて関わり方も変わりました。

周囲からは仕事を休む不安、「旦那さんが育休なんて信じられない」、「すごい」、「えらい」、様々な反応です。妻は当たり前にするのを夫がやればえらい、その反応も正直複雑でした。

この育休期間を経て、頑張ってくれていた妻の偉大さを痛感しました。当たり前ではなく家族で助け合い日々過ごしていきたいと思います。